

特集

医療AI

の普及拡大とさらなる展開

医療からヘルスケアサービスまで
発展に向けた現状と展望

医療における人工知能（AI）の活用が進む一方、AIを用いたプログラム医療機器（Software as a Medical Device : SaMD）の普及は進んでいないとの指摘があります。今後、医師の働き方改革など医療の効率化を進めるためにも、さらなるAIの活用が求められます。そこで、本特集では、AIの普及に向けた施策や人材育成の取り組み、AIモデル、医療機器・ヘルスケアサービスの現状と今後を取り上げます。

企画協力：藤田広志 岐阜大学特任教授

Artificial
Intelligence
in Medicine

I 医療AIにかかわる制度の動向

特集

医療AI

の普及拡大と
さらなる展開

1. 保健医療分野AI開発加速 コンソーシアムの活動と 今後の展望

高江 慎一 厚生労働省大臣官房厚生科学課

厚生労働省においては、政府全体の動きを踏まえ、2017年6月に取りまとめられた「保健医療分野におけるAI活用推進懇談会」報告書において、AI開発を進めべき重点6領域として、①ゲノム医療、②画像診断支援、③診断・治療支援、④医薬品開発、⑤介護・認知症、⑥手術支援を選定した。これらの領域における課題や対応策に加え、AI開発・利活用促進に向けて幅広い視点から議論を行い、取り組むべき事項を検討する場として、2018年7月に「保健医療分野AI開発加速コンソーシアム（以下、コンソーシアム）」（図1）を設置し、2019年6月に中間整理

を行い、2020年6月18日に「保健医療分野AI開発加速コンソーシアム議論の整理と今後の方向性（令和元年6月28日策定）を踏まえた工程表について」を公表したところである。

政府においては、Society 5.0の実現を通じて世界規模の課題の解決に貢献するとともに、わが国自身の社会課題の克服や産業競争力の向上に向けて、AIに関する総合的な政策パッケージである「AI戦略2022²⁾」や、「AI-Readyな社会」を実現し、AIの適切で積極的な社会実装を推進するためには、各ステークホルダーが留意すべき基本原則である「人間中心のAI社

会原則³⁾」などを定め、AIに対する基本戦略・基本理念を明らかにしてきた。また、医療分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）を通じたサービスの効率化・質の向上を実現することにより、国民の保健医療の向上を図るとともに、最適な医療を実現するための基盤整備を推進するため、関連する施策の進捗状況などを共有・検証することなどを目的として、内閣総理大臣を本部長とする医療DX推進本部が2022年10月に設置された。厚生労働省においても、「医療DX令和ビジョン2030」の実現に向けて、データヘルス改革推進本部に厚生労働大臣をチーム長